

〔巻頭言〕

開学35周年を新たな出発として

学長 水 元 昇

まず、開学35周年を飾る『創価女子短期大学紀要』の発刊に対し、これまで執筆されてこられた皆様ならびに編集に携わっていただいた皆様に心から感謝とお祝いを申し上げたい。

1985年、本学は「社会に有為な女性リーダー」の輩出を目指し、女性教育の幸福城として開学した。以来、11,800名を超える卒業生を社会に送り出し、早や35周年の佳節を迎えることとなった。これまで短大教育に携わった教員の皆様、職員の皆様、そして何よりも陰に陽に私たちを励まし、見守っていただいた創業者池田大作先生に最大の感謝を申し上げたい。

第1回入学式で創業者池田大作先生は、その冒頭、私たちが目指すべき教育の一つの挑戦目標として、たった二年しかない短大生の一日一日をどこまでも充実させるためにと以下のように、激励の言葉を贈ってくださった。

短期大学に学ぶ二年間という歳月は、短いといえば短い。しかし、最も深く長い二年間と申し上げたい。この二年間に教授と学生が一体となって、四年制大学の卒業生以上の実力をつけることを、私は願望いたします。

（「第1回入学式スピーチ」『創立の精神を学ぶ—創価女子短期大学編』より）

そして、建学の指針について、

最後に、皆さん方が、本学のモットーである「知性と福德ゆたかな女性」「自己の信条をもち人間共和をめざす女性」、そして「社会性と国際性に富む女性」に成長されんことを心から祈って、私のあいさつとさせていただきます。

（「第1回入学式スピーチ」『創立の精神を学ぶ—創価女子短期大学編』より）と結ばれている。

以来、教職学でこの言葉を合言葉として、学びへの挑戦をそれぞれが果たしてきた。

この言葉は短大永遠の指針として、この35年間の土台を築いてきた。純粹に前を向いて、この言葉を胸に刻み、挑戦を重ねる短大生の姿は、女性の時代を拓く大きな力を築いてきた。

この二年間で四年分の学びとは言うまでもなく短大教育の一つの挑戦目標ではあるが、決して質保証を意味する言葉ではない。私は短大教育の35年を通して、この激励の言葉が、あるときは学生の心に火を灯し、挑戦の心で頑張り抜き、自信と力をつけて自分が変わったといえる短大時代に感謝している学生をたくさん見てきた。例えば、入学時に補欠合格だったが、卒業時には創立者賞をいただいた学生や、創価大学に編入して特待生や首席で卒業を勝ち取るメンバー、また海外の大学に進学し、国連職員になったメンバーなど、友と切磋琢磨する中で、自身への挑戦をし続けた短大時代を原点として、社会でその分野の第一人者として活躍し、様々な教育成果を上げている。また、私たち教員にとって授業の質の向上や工夫など、様々な改善に進む原動力にもなってきた。

一昨年いただいた日本一となる「社会人基礎力育成グランプリ」大賞の受賞の際にも、短大生としての社会人基礎力の成長度が何よりも評価されたと確信している。また、様々な外部機関での大会に出場するたびに、短大教育の質の高さが評価され、「二年間で四年制大学を十分上回る成果を上げているだけでなく、人間として礼儀正しく、爽やかな振る舞いは本当に見事です。」など、たくさんの賞賛の声を聴くことができた。

創価教育の創始者牧口常三郎先生は、教育者として生徒の幸福こそ教育の目的とされ、真っ先に女性の教育に尽力された。創立者池田先生はその弟子である恩師戸田城聖先生の想いに応じて短大を創立された。その想いを以下のように語られている。

私と妻の「夢」は創価教育の創始者・牧口常三郎先生、そして戸田城聖先生の「夢」を実現することであります。その最大の「夢」の一つが、女性教育の殿堂たる創価女子短期大学の創立でありました。

この短大の麗しきキャンパスで、「正しき人生」「幸福の人生」「勝利の人生」へと、「誉れの青春」を乱舞しゆく皆さん方を見守ることが、私と妻にとって、何よりも何よりも幸福なのです。

（「キュリー夫人を語る」『創立の精神を学ぶ—創価女子短期大学編』より）

また、開学30周年を祝した巻頭言の中で、女性教育の意義について以下のように言及されている。

二十一世紀は「女性の世紀」一。これは、私の人生を貫いてきた信念です。世界には紛争や暴力、差別、貧困など、さまざまな課題が山積しています。その多くは、残念ながら、これまでの男性中心の社会から生まれた問題であるといっても過言ではないでしょう。ゆえに今こそ、女性の持つ豊かな力が求められると確信します。

女性には生命を慈しみ、育む、妙なる母性があります。平和を愛し、調和を求める本然の智慧があります。偉大な女性リーダーが陸続と育つならば、人類社会はもっと人間性にあふれた平和と調和の社会、生命尊厳の精神が輝く社会へと発展していくに違いありません。

そして、この「女性の世紀」を照らす人間教育の光の城こそ、私たちの創価女子短期大学なりと、声高らかに宣言したいのであります。

（「特別寄稿 幸福の未来へ 共に舞いゆけ」『創立の精神を学ぶ—創価女子短期大学編』より）

このように、女性の世紀を拓くために集った学生の皆さんと共に、教職で

団結して時代を拓く女性リーダーの育成に全力で取り組んできた。

開学35周年にあたり、私たちはこれからの目指す短大教育を、改めて「**生命尊厳、平和と調和、価値創造 —— 女性の持つ豊かな力を育む教育**」と定め、これからの教育に取り組んでいきたい。

この短大紀要は私たち専任教員が教育に研究にと、力を養い学生を励ましながら、社会に有為な女性リーダーを輩出するために努力してきた証でもある。

短大を巡る環境はますます厳しさを増している。少子化の影響、四大進学への流れ、本年初頭より始まったコロナウイルス感染症の影響など大きくこれからの価値基準は変わろうとしている。その中でも一人ひとりを励まし、二年間で最高の価値を生み出すために、これからも「教師自身が最大の教育環境」との言葉を胸に、学生第一で教育・研究に励み、開学50周年を目指して尽力していきたい。